

## 人と人をつなぐのが「媒体業」 情報誌発行から多面的展開を模索

有限会社エンカレッジ 代表取締役 渋谷明美氏

秋田県内で発行されるフリーペーパー(無料情報誌)の嚆矢となった『Ag』。ビジネスモデルとしては難しさもあるフリーペーパー事業だが、それを9年続けてきたのみならず、更にそこから派生する新たなビジネスチャンスに歩を進めている発行元の渋谷明美社長にインタビューした。

### フリーペーパーの発行を軸にして 派生するビジネスチャンスを探る

中高年代男性を主要ターゲットにしたフリーペーパー『Ag』を県内版4万部と県外版6万部、隔月で交互に発行しています。掲載している記事の多くは、広告主の意を汲んで有料で掲載する「記事体広告」です。この広告料収入が事業の一番の柱です。

私が新卒で就職した株式会社リクルート(現リクルートホールディングス)には社員に新規事業を提案させる制度があり、そこで私は定年退職者向け情報誌の発行を提案しました。在職中は実現しませんでした、それが私の中で原点になっていて、秋田に戻り子育てが一段落したのを契機に、当時の夢を自分自身の手で実現させようと平成16年に起業しました。

今となっては、フリーペーパーの発行が事業の最終目的ではなく、むしろ、そこから派生するあらゆることさらにビジネスチャンスを見

出していきたいと考えています。現在の事業品目は、Agの発行のほか、チラシ、パッケージ企画、ホームページ制作、イベント催行など多岐に渡っています。

### 2次元世界から3次元世界へ 人やモノが動く仕掛けづくりを

クライアント(広告主)側だけに目を向けるのではなく、読者の側に対してもさまざまなアプローチをしています。最近では読者を対象に秋田駒ヶ岳に登る企画も実施しました。こういう企画があると中高年でも山登り体験がしやすくなりますし、下山後にAgのクライアントである温泉ホテルに泊まる行程を組めば、当社としてはクライアントに恩返しも出来ます。フリーペーパーという2次元の世界から、実際に人やモノ、お金が動く3次元の世界に流れを持っていきます。このように、クライアントと読者、人と人を結びつけるのが「媒体」の役割ではないか

と思っています。Ag県外版では秋田と都会を結びつける役割も担っています。

県外版の配布ルートとして大きいのは全国各地にある秋田県人会です。郷里に対する思いの強い県人会の皆さんは、Agの貴重な読者であり、同時に、ありがたいサジェスションを与えてくれる存在でもあります。こういう切り口で秋田をPRすればいいのではないかとこのようなアドバイスをいただくことがあります。そういう声をフィードバックすることが、当社の事業展開や秋田全体にも良い刺激になるのではないかと

### 媒体としての務めを堅持しつつ デジタル化の移行も視野に入れる

Agは最初は県内版のみでしたが、営業や取材で県内を回っていると空き店舗の多さが気になりました。人口も減る一方だし、自殺率ナンバーワンといった暗い話題ばかりが先行していました。そういうことに危機感を覚え、媒体業として何が出来るかと考え、秋田の自然や食の素晴らしさ、秋田の人たちの飾らない素朴な人柄、そういったプラスの話題を地元から発信していくべきだろうと

思ったのが県外版創刊のきっかけでした。

時代が時代なので広告事業だけでは厳しいし、フェイスブックやツイッターといった情報ツールも登場してきた今となっては、Agも紙媒体のままでいいのかという思いはあります。実際に当社もフェイスブックを使ってみて、その有用性に目を見張っています。ただ、紙からデジタルへの移行など様相が変わることがあっても、人と人をつなぐ「媒体」であり続けることは貫き通したいと思っています。

#### 有限会社エンカレッジ

〒011-0904 秋田市寺内蛭根1丁目13-11-105  
Tel.018-838-6406 Fax.018-838-6407  
<http://www.ag55.com/>  
<http://www.facebook.com/encourageAg>  
E-mail [encourage@ag55.com](mailto:encourage@ag55.com)



スタッフは全員、営業・取材・執筆・制作をこなす。



A. 編集長としてデザインには細やかな指示も。  
B. フリーペーパー全国コンテストで2年連続1位の快挙を報じる新聞記事。  
C. 人と出会うのも仕事のうちという渋谷さん。著名人の知己も増えた。  
D. 掛魚(かけよ)祭り(にかほ市)で読者との交流会を企画した。  
E. 秋田県人会とかつての国体の応援にかけつける。  
F. 最近プロデュースした合格祈願くんぶ。

